



10月



令和6年9月30日
横浜市立金沢小学校
校長 保科 優子

休み時間の校庭で

児童支援専任 小野 智子

吹く風は涼しくなり、空に浮かぶ雲からも秋の深まりを感じます。
校舎裏の栗の木も毎日のように実を落としています。

秋は宿泊学習や校外学習など、普段とは違う環境での学びのチャンスがあります。
発見や感動を共有すること。また、いつもとは違うからこそ起きる出来事などにどう折り合いをつけ、新たに直面した問題を解決していくか、これは大切な学びだと思います。

休み時間、校庭ではドッジボールをして楽しむ子どもたちがたくさんいます。
そのチーム構成もさまざまです。高学年が中心の迫力あるドッジボール。1チーム5~6人の低学年・中学年グループ。多くのグループは、異学年で構成されています。

どちらが先にボールを投げるか、1回当たただけではアウトにはならず低学年は2回までOK、自分たちで砂に書いた線から足が出たときの許容範囲などルールもさまざまです。見ているだけでこちらもわくわくしてきます。

「今のどうする?」「セーフでいいんじゃない?」「(強く当ててしまった子に対して)ごめん。」

そこに教師の仲介はなく、実にスピーディーに折り合いをつけながらゲームがすすんでいきます。当たったことが痛く、そして悔しく、ぐっと我慢している子にうまく声をかけられず心配そうに見つめる子…。折り合いがつけられず自分たちで解決できなかった時にはじめて教師の出番です。話を整理し、どういう思いで、これからどうしたいのかを一緒に考えます。

子どもは新しいことに直面すると、これまでのやり方を用いたり、周囲の支援を受けたりしてそれを解決し、乗り越えたことを新しい経験として成長していきます。

幼児期からの遊びが学びにつながり、小学校での学びが遊びを一層豊かなものに行っていると感じます。

これからの過ごしやすい季節、子どもの可能性を信じて、発見や感動を一緒に共有していきたいです。